

# 計器観測による有珠山頂火口原の 地殻変動\* (1979年1月～4月)

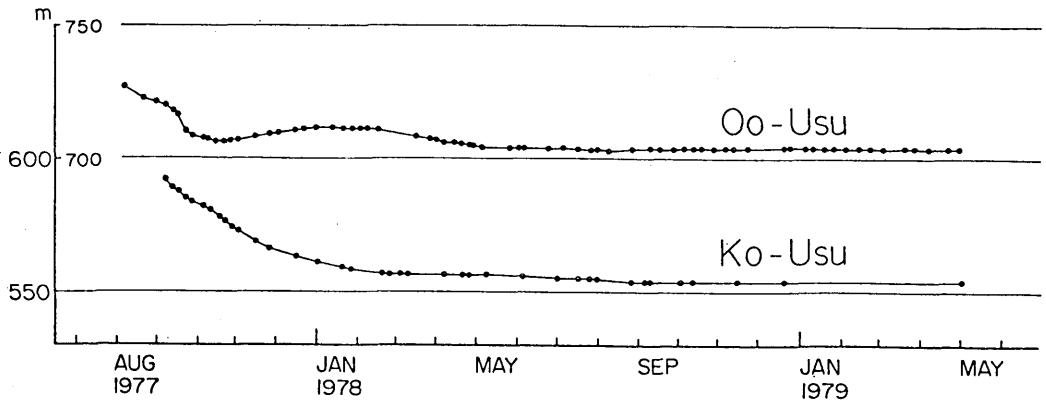
北海道大学理学部有珠火山観測所

1), 2), 3), 4) 前報 に引き続いて、有珠山の南々東約8 kmに位置する伊達市役所屋上から、火口原内の目標点(小有珠・新山・おがり山・大有珠)の高度角を測定して、それらの高度変化を追跡した結果を報告する。測定に用いた経緯儀は、従来と同じくTM-1型(0.1"読み、測機舎製)である。

新山およびおがり山は明らかに北東及び北へそれぞれ移動しているの、既報<sup>4)</sup>のように、有珠山北側における辺長変化(北外輪のせり出し)がほぼ連続的に測定されているので、南側辺長の伸びを北側辺長の縮みに比例するとして、補正を施している。

## 小有珠

本期間中は噴気多量のため、測定は1回だけである。結果を第1図に示す。現状はほぼ安定しているようである。

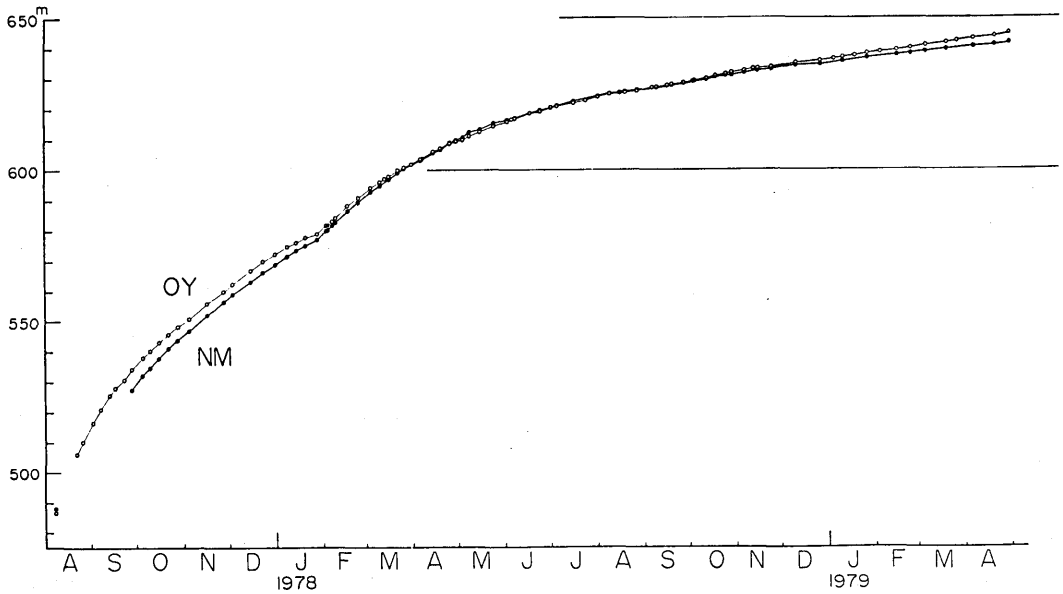


第1図 小有珠および大有珠の高度変化

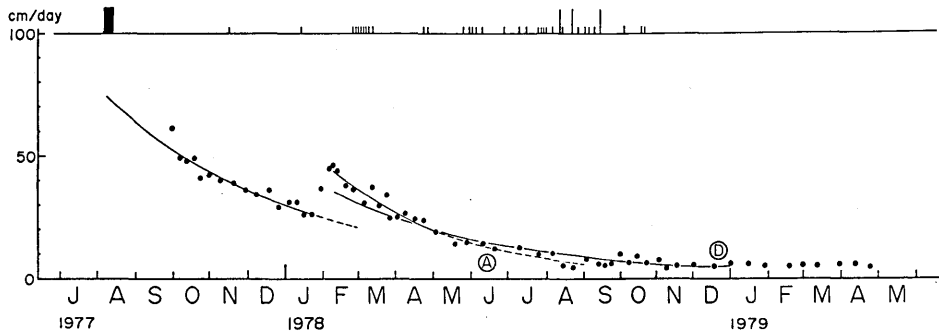
## 火口原内新山

現在までの結果を第2図に示す。4月末日の高さは642.4mで、隆起速度は3.9 cm/dayである。隆起速度の変化を第3図に示す。1978年11月からほとんど一定であり、もはや、指数曲線で近似できない。すなわち、表面活動が終わってから、新しい活動段階に入ったと言える。この傾向はおがり山についても同じである。

\* Received May 10, 1979



第2図 新山(NM)およびおがり山(OY)の高度変化

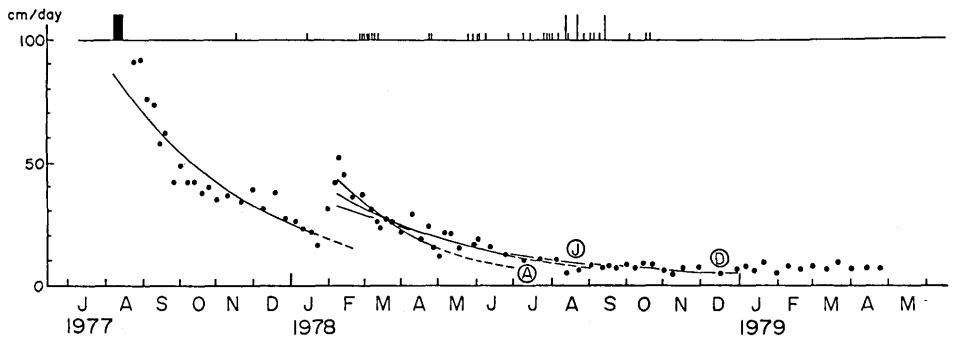


第3図 新山の隆起速度  
(上の横軸上に表面活動を示す)

- Ⓐ: 1978年2月～4月のデータで決めた減衰曲線
- Ⓑ: 1978年2月～12月のデータで決めた減衰曲線

### おがり山

現在までの結果を第2図に示す。4月末日の高さは645.2mで、隆起速度は4.7cm/dayである。隆起速度の変化を第4図に示す。1978年末頃から、平均して新山より隆起がやや速いようである。

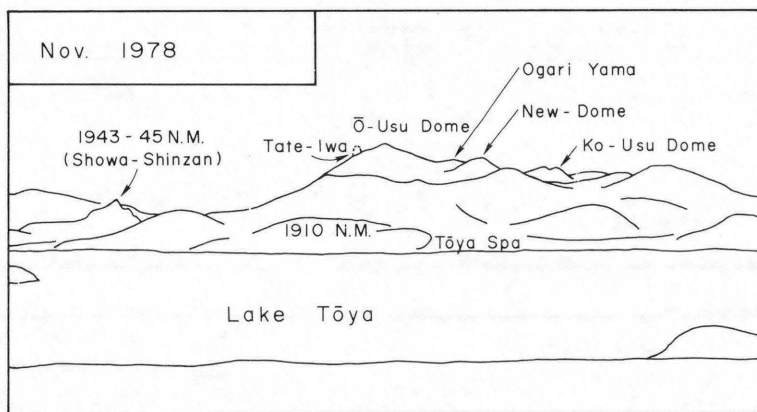
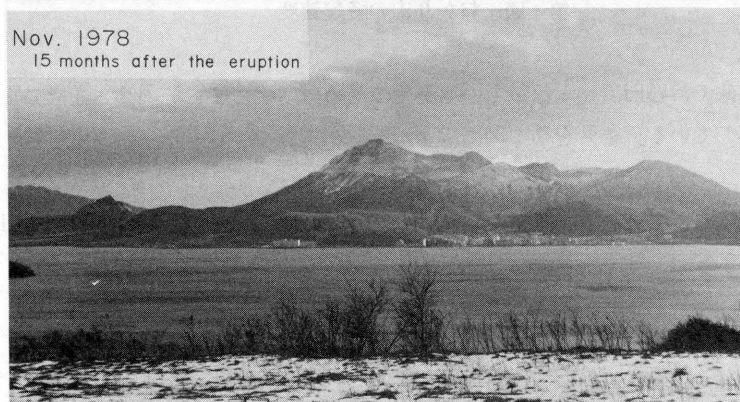
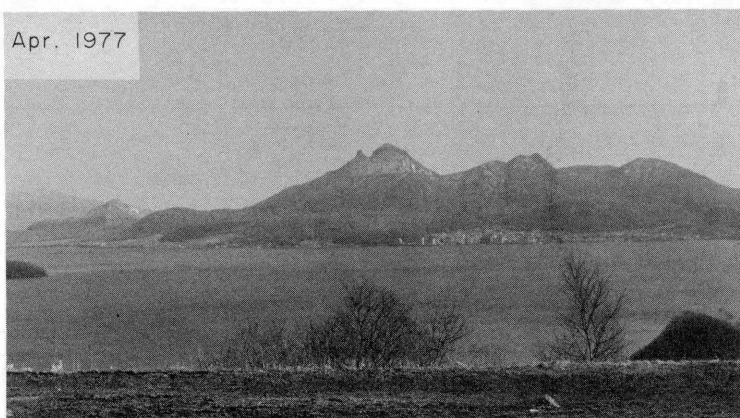


第4図 おがり山の隆起速度

大有珠

噴火初期に大有珠（溶岩円頂丘）は激しい地震動のために崩壊して、その高さを減じたが、現在、南方から見る限り安定している。結果を第1図に示す。

なお、北方から望んだ噴火前（1977年4月）と噴火後15か月（1978年11月）の有珠山の比較写真を第5図に示す。



第5図 北よりみた有珠山の地形変化

参 考 文 献

- 1) 北海道大学理学部 (1978) : 計器観測による有珠山頂火口原の地殻変動 (1977年8月~12月)、噴火予知連会報、11、8-12。
- 2) 同上 (1978) : 同上 (1978年1月~3月)、同上、12、6-8。
- 3) 同上 (1978) : 同上 (1978年4月~6月)、同上、13、16-20。
- 4) 同上 (1979) : 同上 (1978年7月~12月)、同上、14、6-9。